

勝利を得る初穂が従う小羊

聖書：啓 14:1-5．創 5:22-24．ヘブル 11:5-6．マタイ 24:45-51

I．啓示録第 14 章 1 節から 5 節は、勝利を得る初穂が従う小羊としてのキリストを啓示しています：

A．初穂は、生きている勝利者であって、彼らは神の畑で最初に熟した者となります。このゆえに、彼らは神と小羊への初穂として、収穫の前に刈り取られます：

- 1．初穂は天のシオンの山に、第三の天の神の住まいに取り去られて、神とキリストの臨在の中にいるようになります。
- 2．携え上げの意義は、主の臨在の中へともたらされることです。主の臨在の中へともたらされるために、わたしたちは今日、彼の臨在の中にいなければなりません——ルカ 21:36．Ⅱコリント 2:10．ホセア 6:2．Ⅱテモテ 4:8．使徒 26:16。
- 3．携え上げは、敵を打ち破り、神を満足させるためです。主は、男の子が主の敵と戦うことを必要としていますが、それにもまして、彼はご自身の満足と享受のために、初穂を必要としています——啓 12:5．14:1，4 後半。

B．聖書は、携え上げの二つの面を啓示しています。すなわち、大患難の前の勝利者の携え上げと、大患難の終わりの大多数の信者たちの携え上げを啓示しています——マタイ 24:40-41．ルカ 21:36．啓 3:10．Ⅰテサロニケ 4:15-17．啓 12:5．14:1。

C．レビ記第 23 章 10 節で、携え上げの予表、すなわち畑で熟している作物の予表を見ます——マタイ 13:24．啓 14:14-16：

- 1．神の作物を刈り取ることは、わたしたちが携え上げと呼んでいるものです。この刈り取ることは、信者たちが地から取り去られることを示します——マタイ 13:30，39 後半。
- 2．作物の一部(初穂)は、早く熟して、早く刈り取られます。残りの作物(収穫物)は、後に熟して、後に刈り取られます。
- 3．啓示録第 14 章によれば、二種類の携え上げ、すなわち初穂の携え上げと、収穫物の携え上げがあります——4 節後半，14-16 節。

D．初穂は神の新鮮な享受として、シオンにある神の家に携え上げられます。これは、神の満足のためです——出 23:19 前半．レビ 23:10．参照、ヨハネ 20:17 前半。

E．初穂は、小羊の名と彼の御父の名がその額に記されています。これは、彼らが小羊と御父と一であり、小羊と御父に属していることを表明しています——啓 14:1 後半。

F．初穂は、神の作物の中で最も早く円熟に達したものです——ヘブル 5:14—6:1．Ⅰコリント 2:6．エペソ 4:13．ピリピ 3:15：

- 1．造り変えられるとは、わたしたちの天然の命において変えられることです。円熟させられるとは、わたしたちを変える神聖な命で満たされることです——ローマ 12:2．エペソ 3:19 後半。
- 2．神の表現のために、円熟する必要があります。円熟した命だけが、神のかたちを帯び、彼の統治権を行使することができます——創 1:26．ローマ 5:10，17，21。

II．わたしたちは小羊に従い、円熟へと前進して初穂となるために、信仰によって神と共に歩み、死を逃れ、神に喜ばれる証しを得なければなりません：

A．死を逃れ、神に喜ばれる証しを得る道は、神と共に歩むことです——創 5:22-24．ヘブル 11:5-6：

- 1．神と共に歩むとは、神を踏み越えないこと、^{ごうまん}傲慢にならないこと、自分の観念や願望に

したがって事を行なわないこと、時代の潮流にしたがって事を行なわないこと、神なしに何も行なわないことです——参照、詩 19:12-13. ヨシュア 9:14 後半. ルカ 24:15。

2. 神と共に歩むとは、神をわたしたちの中心またすべてとすることであり、神にしたがって、神と共に生き、事を行なうこと、すなわち、彼の啓示と導きにしたがって生き、事を行なうことであり、彼と共にすべてを行なうことです——ローマ 8:4, 13-14. ガラテヤ 2:2 前半. II コリント 5:14-15。
 3. 神と共に歩むことが意味するのは、わたしたちが何であるかによって、あるいはわたしたちが行なうことができることによって生きるのではなく、キリストご自身である不死の命によって生きるということです——4, 9 節。
 4. 神と共に歩むとは、神との習慣的な交わりを持つこと、主との絶え間のない接触の中にいること、彼の絶え間のない注入の下にいます——I ヨハネ 1:3. ピリピ 4:6. II コリント 3:16, 18。
 5. 神と共に歩むとは、絶えずわたしたちの霊を活用して、ほめたたえられるべき三一を享受することです——ユダ 14, 19-21 節。
 6. 神と共に歩むことは、自己と自己に属するすべてを否んで、わたしたちが彼と一になることを暗示しています。それは、わたしたちが自分自身を彼にささげ、彼に抵抗しないで従い、彼にリードを取っていただくことを暗示しています——マタイ 16:24-25. II コリント 2:13-14。
- B. 神と共に歩むとは、信仰によって歩むことです——II コリント 5:7. ヘブル 11:5-6：
1. 信仰が意味するのは、「神は……である」ことをわたしたちが信じることです——1-2, 6 節. II コリント 4:13, 18：
 - a. 信仰がなくては、神を喜ばせ、神を幸いにすることはできません——ヘブル 11:6 前半。
 - b. 「神は……である」ことを信じることは、彼がわたしたちのすべてであって、わたしたちは無であることを信じることです——ヨハネ 8:58. 伝 1:2。
 - c. 「神は……である」ことを信じることは、わたしたちはないことを暗示します。すべてのことで、彼が唯一の方、唯一無二の方でなければならず、すべてのことで、わたしたちは無でなければなりません——創 5:24. ヘブル 11:5。
 - d. 「神は……である」ことを信じることは、わたしたちの自己を否むことです。全宇宙で彼はあり、わたしたちはみな無です——ルカ 9:23。
 - e. わたしは何かであってはなりません。わたしは存在すべきではありません。彼だけが存在すべきです。すなわち、もはやわたしではなく、キリストです——ガラテヤ 2:20。
 - f. タルソのサウロが回心した時、主は彼に「わたしは……イエスである」と告げました——使徒 9:5：
 - (1) 主は次のように言っていました、「わたしは大いなる『わたしはある』である。わたしはある者である。あなたは、わたしがあること、あなたはないことを信じなければならぬ」。
 - (2) 最終的に、サウロは終わらせられ、パウロが現れました——13:9。
 - g. これが信仰です。「ああ、何という喜び。何も持たず、無であり、栄光の中の生けるキリスト以外何も見ず、地上で彼の権益のほか何も顧慮しないことの喜び」(J・N・ダービー)。
 2. 信仰が意味するのは、神が彼を熱心に尋ね求める者たちに報いてくださる方であること

- を、わたしたちが信じるということです——ヘブル 11:6．創 15:1．ピリピ 3:8，14：
- a. エノクの褒賞は最高の程度の命、すなわち死から逃れることでした——ヘブル 11:5 前半．Ⅱコリント 5:4．ローマ 8:6，10-11．5:17。
 - b. 主は報いてくださる方であり、わたしたちは彼を尋ね求める者となる必要があります——詩 27:4，8．42:1-2．43:4．73:25．119:2，10。
- C. エノクは、携え上げられた最初の人として、生きている間に携え上げられるすべての勝利者の代表です——マタイ 24:37-51．啓 14:1．ルカ 21:34-36：
1. わたしたちが携え上げられることは、わたしたちが神と共に歩むことによって、神聖な命の中で円熟することにかかっています——ヘブル 6:1 前半。
 2. エノクは絶えず神に向かって、神と共に、日夜、三世紀も歩み、神にますます近くなり、毎日ますます神と一になり、ついに「神が彼を取られたので、彼はいなくなった」——創 5:24．参照、雅 8:5 前半。
- Ⅲ. わたしたちは小羊に従い、円熟へと前進し、初穂となるために、主の委託において忠信に奉仕し、神を食物として神の家族の者たちに与えなければなりません。それはわたしたちが来たるべき王国において、キリストをわたしたちの褒賞として勝ち取るためです——マタイ 24:45-51：
- A. 神は家庭、また家庭の行政、すなわちエコノミーを持っており、彼ご自身を食物として彼の家族の者たちに分与し、彼ご自身を表現させます——Ⅰテモテ 1:4，3:15．エペソ 2:19。
 - B. 神は彼の家族の上に忠信で思慮深い奴隷たちを、家庭の管理者、執事、供給の経路として任命して、時に応じて彼の民に食物を与えるようにさせます——マタイ 24:45．Ⅰコリント 9:17．エペソ 3:2．Ⅰコリント 4:1．Ⅰペテロ 4:10．ピリピ 1:25。
 - C. 「彼らに食物を与える」とは、召会の中で、神の言葉とキリストを命の供給として信者たちに供給することを指しています。命を与える霊であるキリストは、わたしたちの食物であり、命の言葉の中で具体化され、実際化されています——ヨハネ 6:57，63，68．使徒 5:20：
 1. 主をわたしたちの霊的な食物として享受して、わたしたちが他の人を養うことができるようになるために、わたしたちは彼の言葉を用いて祈り、思い巡らして、注意深く考察することを通してそれを味わい、享受しなければなりません——エペソ 6:17-18．詩 119:15．エゼキエル 3:1-4。
 2. わたしたちは祈りと言葉の務めに自分自身を専心させなければなりません——使徒 6:4．Ⅱコリント 3:6，8．ヨハネ 7:37-39．参照、ヘブル 7:25．8:2。
 - D. わたしたちが、心の中でわたしたちの主人は来るのが遅れると言うことは、今の邪惡な時代を愛し、主の出現を愛さないことです——マタイ 24:48．Ⅱテモテ 4:8，10．参照、使徒 26:16：
 1. わたしたちはどん欲に気をつけなければならず、自分のために宝を蓄えずに、神に対して富んでいなければなりません——ルカ 12:15-20．Ⅱコリント 6:10．エペソ 3:8。
 2. 「ロトの妻を思い出さない」は、この世を愛する信者たちに対する嚴肅な警告です——ルカ 17:31-32．参照、ローマ 1:21，25。
 3. わたしたちは目を覚まして祈り求めて、主の來臨の日が^{わな}罠のように、突然わたしたちに襲いかかることがないようにしなければなりません——ルカ 21:34-36．参照、マタイ 2:3。
 - E. わたしたちの奴隷仲間を打ちたたくとは、仲間の信者たちを虐待することです——24:49 前半．18:3-7．使徒 9:4：
 1. わたしたちは自分の仲間の信者たちを裁いたり、罪定めしたりしてはならず、彼らに対

して親切で情け深くあり、神がキリストにあってわたしたちを赦してくださったように、彼らを赦さなければなりません——ルカ 6:37． エペソ 4:31-32。

2. わたしたちは自分の兄弟たちをののしったり、批判したりしてはならず、彼らを自分自身よりすぐれていると思わなければなりません——I コリント 6:10． ピリピ 2:2-3, 29:

a. 兄弟をののしることは、攻撃的な言葉で荒々しく彼を批判したり、侮辱したりすることです。

b. ののしる言葉を聴く人は、ののしる言葉を語る人と同じ責任を負います。そのような言葉は、からだを損ないます。

c. 生まれつき他の人たちを批判するのが好きな人に、神は決して権威を託しません。

3. わたしたちは自分の仲間の信者たちの上に権力を振るってはず、奴隷として彼らに仕えて、命を与える霊である復活したキリストをもって彼らを養わなければなりません——I ペテロ 5:3． マタイ 20:25-28:

a. 人が聖徒たちの上に権力を振ることが意味するのは、彼らに代わって決定し、彼らがどこに移住すべきかを告げることによって、生活の中で主に置き換わり、こうしてキリストの頭首権と主権を侮辱することです。

b. もし、わたしたちが他の人たちに、祈ったり、主の導きを尋ね求めたり、からだの中での正常な交わりを持ったりするように励まさないで、彼らの行くべき場所を彼らに告げるなら、これは、主に対する最大の侮辱です!

F. 酔っぱらいどもと食べたり飲んだりするとは、この世的な事柄に酔いしれた、この世的な人々と交遊を持つことです——マタイ 24:49 後半、参照、エペソ 5:18:

1. 信者たちは神聖な性質と聖なる身分のゆえに、未信者たちと同じくびきにつながれるべきではありません。これは結婚や事業にだけでなく、信者と未信者の間のあらゆる親密な関係に適用されるべきです——II コリント 6:14． I コリント 15:33． 参照、箴 13:20。

2. わたしたちは若い時の欲から逃れ、純粋な心で主を呼び求める人たちと共に、すべてを含むキリストを追い求めなければなりません——II テモテ 2:22。